

「「こうや花鉄道」プロジェクト」 & 「高野線全線開通80周年記念」
高野下駅ホームに「南海思い出ミュージアム」を設置します
全国の大手私鉄で唯一！ 12月8日(水)に完成セレモニーを開催

南海電鉄（本社：大阪市中央区、社長：亘 信二）では、「こうや花鉄道」プロジェクトおよび高野線全線開通80周年記念事業の一環として、12月8日（水）、高野線 高野下駅（和歌山県九度山町）のホームに「南海思い出ミュージアム」を設置します。同ミュージアムを通じて当社鉄道の歴史をPRすることで、お客さまに高野線および当社に愛着を持ってご利用いただきたいと思います。

なお、構内に鉄道部品などのミュージアムを常設している駅は、全国の大手私鉄で唯一となります。

「展示ケース」 & 「展示ツリー」を設置

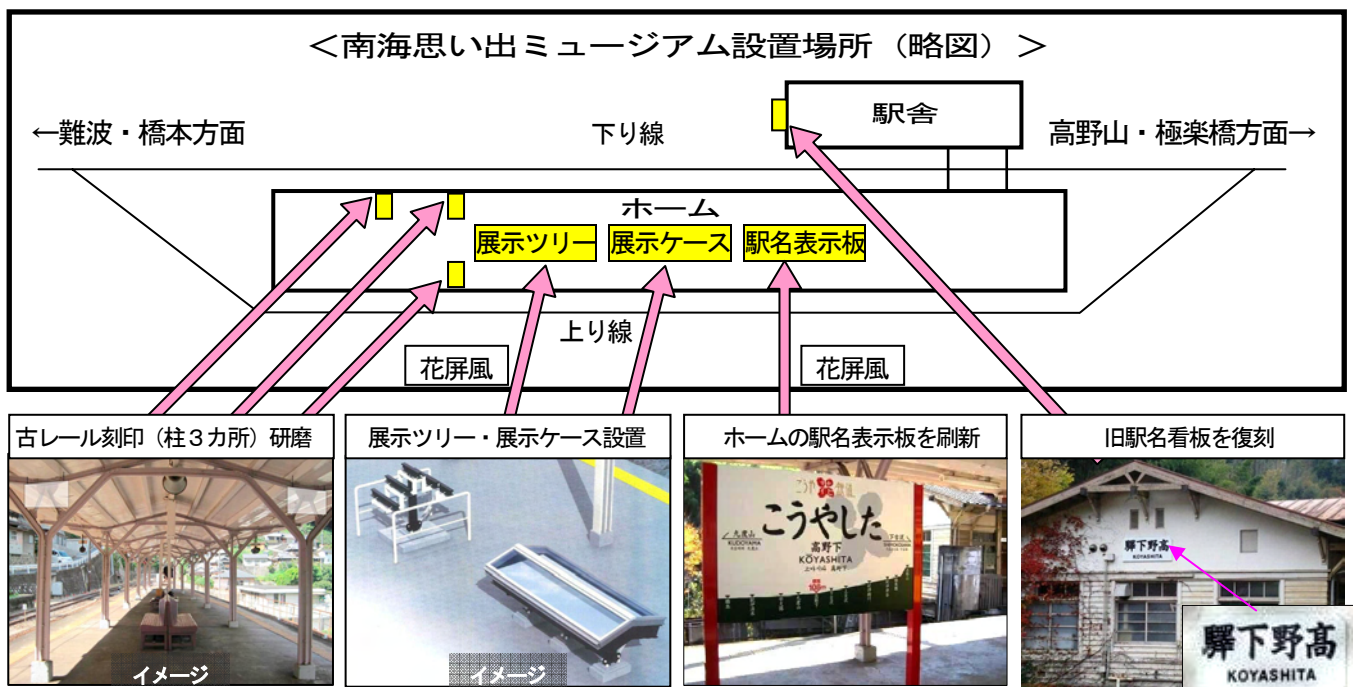
ホーム中央付近には「展示ケース」と「展示ツリー」を設置します。展示ケースでは、レールを固定するために使用された犬釘や、実際に車両に取り付けていた社章マークなどの秘蔵品を展示。一方の展示ツリーでは、実際に使用されていたレールを中心に、様々なメーカーの古レールを展示します。

古レール（上屋の柱3カ所）の刻印部分を研磨

同駅は、こうや花鉄道区間（橋本～極楽橋駅間）で唯一、ホームの上屋すべての柱に「外国製の古レール」が使用されています。そこで、古レールの製造会社、製造年月、発注会社などが標記された刻印部分（3カ所）を研磨して読みやすくするとともに、それぞれ柱の上部に説明板を設置。展示コーナーだけでなく駅全体をミュージアムとしてお楽しみいただけます。

旧駅名看板を復刻 & ホームの駅名表示板を刷新

同ミュージアムの設置とあわせて、駅舎の難波側の「駅名看板」を昭和初期のデザイン（サイズ：縦650mm×横1400mm）に復刻するとともに、ホームの駅名表示板を刷新します。新しい駅名表示板には「こうや花鉄道」プロジェクトのロゴマークをデザイン。4カ国語表記によって駅名や同駅の標高を表示することで、海外からお越しのお客さまにも対応します。



1. 「南海思い出ミュージアム」について

(1) 完成予定日

平成22年12月8日(水)

(2) 内容

① 「展示ケース」について

ガラス板で覆われた展示ケースの中に、レールを固定するために使用された「犬釘」や、実際に車両に取り付けていた「社章マーク」などの秘蔵品を陳列して展示します。

<サイズ>

幅約2.6m×奥行約1.2m×高さ1.2m

<展示点数>

19点

<主な展示物>

犬釘、溝付レール、双頭レール、旧車両銘板、羽車マーク、レールスライスなど



展示ケース (イメージ)



(左から)
犬釘、
大和川橋梁の銘板、
羽車マーク

② 「展示ツリー」について

ツリー(樹木)の形に組み立てられた鉄製の展示棚に、国内外の様々なメーカーの古レールを固定して展示します。レールに触れて歴史を感じることができます。

<サイズ>

幅約1.2m×奥行約1.4m×高さ1.2m

<展示レール本数>

5本

<展示レールのメーカー(製造年、長さ)>

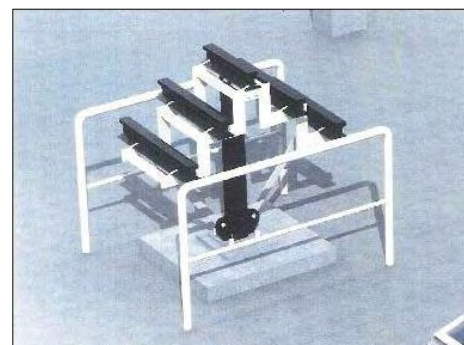
テネシー社(1922年、882mm)

バーロウ社(1897年、651mm)

ボルコウ・ボン社(1897年、549mm)

八幡製鉄(1907年、617mm)

ウェンデル社(1927年、746mm)



展示ツリー (イメージ)

③古レール(上屋の柱3カ所)刻印部分の研磨について

ホーム上屋の柱として使用されている主な古レールの刻印部分(3カ所)を研磨して読みやすくするとともに、柱の上部に説明板を設置します。説明板には古レールに刻印されている内容(製造会社、製造年月、発注会社など)を表示しています。

<研磨した古レールのメーカー(製造年、柱の場所)>

カーネギー社(1897年、1番線側 難波方から6本目)

チャーリーズ・キャンメル社(1902年、2番線側 難波方から6本目)

ドイツ・カイザー社(1906年、1番線側 難波方から3本目)



古レールの説明板 (イメージ)

2. 「完成セレモニー」について

(1) 日 時

平成22年12月8日(水) 13時10分ごろから(約30分間)

(2) 開催場所

高野線 高野下駅ホーム(所在地:和歌山県伊都郡九度山町大字椎出8番地1)

(3) 出席者

<当 社>

執行役員営業推進室長 福本 滋治(ふくもと しげはる)

橋本駅 駅長 松下 和生(まつした かずお)

<ご来賓>

九 度 山 町 町 長 岡本 章(おかもと あきら) 様

九 度 山 町 議 会 議 長 前 喬(まえ たかし) 様

和歌山県伊都振興局地域振興部 部 長 古田 雅昭(ふるた まさあき) 様

椎 出 区 区 長 川口 廣一(かわぐち ひろいち) 様

花 み ず き 会 会 長 河合 達哉(かわい たつや) 様

大阪府豊中市在住(資料提供者) 高嶋 三郎(たかしま さぶろう) 様

(4) セレモニーの流れ

◆13時10分～

オープニング

当社 執行役員営業推進室長(福本)による挨拶

九度山町長(岡本様)によるご挨拶

和歌山県伊都振興局地域振興部長(古田様)によるご挨拶

「南海思い出ミュージアム」除幕・記念撮影

◆13時40分ごろ終了

※荒天などの事由で、セレモニーを中止または内容を一部変更する場合があります。

<<ご参考>>

◎「こうや花鉄道」プロジェクトについて

当社では「こうや花鉄道」プロジェクトとして、高野山という目的地に加え、「そこへ向かう道中」においても鉄道の魅力を作り出し、高野山旅行の「楽しさ」や「期待感」の創出に取り組んでいます。これまでに、下古沢駅と高野下駅での「花屏風」設置や、極楽橋駅と高野山駅のバリアフリー化、橋本～極楽橋駅間での展望デッキ付き列車「天空」の定期運行、九度山駅での「九度山真田花壇」設置などを実施してきました。

今回の「南海思い出ミュージアム」の設置や駅名表示板の刷新も同プロジェクトの一環であり、「鉄道の旅」を通じて、沿線の活性化に貢献することを目的としています。

◎南海電鉄のレールについて

明治のころ、日本ではレールを生産することができず、海外からの輸入に頼っていました。当社の前身・南海鉄道も同様にアメリカのカーネギー社にレールを発注して輸入していました。これらのレールには刻印が標記されており、製造会社、製造年月、発注会社などが分かります。当時は鉄が貴重であったため、使用されたレールは廃棄処分されることなく、駅の柱や境界柵などに再利用されました。しかし現在では駅の柱として使われることはなく、過去に再利用された柱も駅の高架化などで徐々に減りつつあります。

こうした中、高野下駅などではレールを再利用していたころの柱が現在も朽ちることなく使用されています。同駅ホームの柱には、カーネギー社、チャーリーズ・キャンメル社、ドイツ・カイザー社、ボルコウ・ボーン社などによって1896年から1907年の間に製造されたレールを使用しています。

◎「高野線全線開通80周年記念パネル展」のパネル移設について

難波駅と極楽橋駅で実施しました「高野線全線開通80周年記念パネル展」につきましては、11月30日に展示を終了しましたが、お客さまに大変ご好評のため、一部のパネルを高野山駅2階へ移設しました。ぜひご覧ください。

以 上

